

公益財団法人応用科学研究所

令和3年度第1回理事会議事録（遠隔会議）

1. 開催日時 令和3年5月27日（木）14:00～15:20
2. 開催場所 公益財団法人応用科学研究所森記念研究棟2階会議室
京都市左京区田中大堰町49番地
及び遠隔会議（Zoom）システムを介して交信可能な各拠点（下記）
3. 理事現在数及び定足数
現在数 10名、定足数 6名
4. 出席理事数 8名
（本人出席）久保 愛三、成宮 明、野村 俊雄
[遠隔地出席]川寄 一博（自宅から）、北野 正雄（自宅から）、野村 剛（自宅から）、
柳原 正裕（勤務先DMG森精機から）、山路 伊和夫（京大研究室から）
（監事出席）[遠隔地出席]西 亨（自宅から）、村上 博保（村上博保会計士事務所から）
（議案説明及び報告）久保理事長、北野副理事長、野村常務理事、成宮常務理事
5. 議案 第1号議案 『特定費用準備資金積立資産の計上承認』を求める件
第2号議案 『令和2年度事業報告書及び附属明細書、収支決算書及び附属明細書
並びに財産目録の承認』を求める件
第3号議案 『令和3年度定時評議員会の招集』に関する件
第4号議案 『令和3年度定時評議員会に提案する次期理事候補』の件
第5号議案 『令和3年度定時評議員会に提案する次期監事候補』の件
報告事項 1. クボギヤテクノロジーズ（KBGT）について
2. 職務執行状況報告（令和3年度第1回）
6. 開会・議長の選出並びに議事録署名人の選出
会議開始にあたって、野村事務局長が、本日の理事会は遠隔会議システムを利用して行われる旨を述べ、出席者の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意思表示が互いに出来ることを確認した。
(1) 定足数の確認等
14:00に野村事務局長が理事8名及び監事全員の出席を確認し、久保理事長の冒頭の挨拶の後、事務局長から本会議の議事進行及び議案資料について説明があった。
(2) 開会及び議長の選出並びに議事録署名人の選出
定款第46条に基づき久保理事長が議長となり、本会議の成立を宣言した。
議事録署名人は定款第51条の規定に基づき、久保理事長、北野副理事長、西監事、及び村上監事とし、議案の審議に移った。
7. 議事の経過の概要及びその結果
第1号議案『特定費用準備資金積立資産の計上承認』を求める件
議長の求めにより、まず事務局から下記の説明が行われた。
コロナ禍による各種行事が取りやめの結果、公益目的事業費用が減少した。そのため、令和2

年度の遊休財産の一部を来年度以降必要とされる費用に対して特定費用準備資金として1千万円の積立計上を行いたい。内訳としては、研究開発活性化等積立資産に300万円、熱処理老朽化対策等積立資産700万円であり、具体的内容としての費目と実施時期については議案書に示すとおりとの説明があった。

これらの説明に基づき、第1号議案について議長から各理事の意見が徴された後、全員異議なく、本件は可決承認された。

第2号議案『令和2年度事業報告書及び附属明細書、収支決算書及び附属明細書並びに財産目録の承認』を求める件

議長の求めにより、まず事務局から詳細の説明が行われた。引き続き、議長から、去る5月20日に公益財団法人応用科学研究所応接室において行われた監査の結果について、監事の報告が求められ、西監事から業務監査の結果について、監事監査規程に基づき、事業報告書及び理事の職務の執行について問題がなかったことが報告された。また村上監事からは、監事監査規程に基づき会計帳簿並びに関係書類の閲覧を行い、計算書類及び附属明細書並びに財産目録は法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認める旨、報告された。

これらの説明に基づき、第2号議案について議長から各理事の意見が徴された後、全員異議なく、本件は可決承認された。

第3号議案『令和3年度定時評議員会の招集』に関する件

議長から下記の説明があった。

本理事会で審議承認された令和2年度事業報告書及び附属明細書、収支決算書及び附属明細書並びに財産目録について、令和2年事業年度終了時から3ヶ月以内に内閣府への報告を必要とし、それまでに定時評議員会で承認を求める必要があることから、来る6月22日に本年度定時評議員会を招集することの必要理由が説明され、審議の結果、この提案は全員異議なく承認された。

第4号議案『令和3年度定時評議員会に提案する次期理事候補』の件

議長から下記の説明があった。

本法人の現理事は本年6月の定時評議員会をもって任期満了となる。公益財団法人に移行して以来10年が経過し、7年前に新しく発足した機械基盤研究事業もコア事業として確り根付いてきているが、法人を取り巻く景況等は依然として不透明であり、経営上の課題も多く抱えていること。このような状況の中で本法人の更なる発展を図るためには、従来の経緯を踏まえた上での運営と改革に加え、新たな発想も必要であり、今回は9名の再任理事の他に新たに1名の新理事を迎えたいこと。即ち、新任候補の大原久典氏には、新材料の研究開発から製品化に至るものづくりにおける一貫通のキャリアに加え、コーティングと熱処理との違いこそあれ、同じ表面処理加工業界に長く携わってきたキャリアを活かして頂くべく、新たに次期理事に就任して頂くことが適切と考えられるとの説明があった。

これらの経緯から長村理事を除く現理事9名と、大原久典氏を加えた計10名を次期理事として評議員会に提案することが諮られ、全員異議なく了承された。

第5号議案『令和3年度定時評議員会に提案する次期監事候補』の件

議長から下記の説明があった。

本法人の現監事は本年6月の定時評議員会をもって任期満了となる。公益財団法人に移行して以来10年が経過し、7年前に新しく発足した機械基盤研究事業もコア事業として確り根付いてきているが、法人を取り巻く景況等は依然として不透明であり、経営上の課題も多く抱えている。このような状況の中で本法人は、更なる発展を求め、従来の経緯を踏まえつつ変化に対応するための改革を進めて行く必要がある、その観点からは現監事全員の再任をお願いするのが適切と考えられるとの説明があった。

これらの経緯から現監事2名全員を次期監事として評議員会に提案することが諮られ、全員異議なく了承された。

8. 報告事項

議長の求めにより、下記2件の報告があった。

- (1) クボギヤテクノロジーズ (KBGT) について野村常務理事 (事務局長) より報告された。
- (2) 職務執行状況報告 (令和3年度第1回)

ここで、(2) 令和3年度第1回職務執行状況の報告については、別添の配布資料を元に説明があった。報告者はそれぞれ《全般運営》が久保理事長、北野副理事長、野村常務理事及び成宮常務理事、《研究開発運営》が久保理事長及び成宮常務理事、《総務》が野村常務理事であった。

以上をもって全ての議案の審議及び報告は終了したので、議長は閉会を宣し、解散した。

上記の決議を明確にするため、定款第51条により、出席した理事長、副理事長、並びに監事が議事録署名人としてこれに署名押印する。

令和3年5月27日

公益財団法人応用科学研究所令和3年度第1回理事会

議事録署名人 理事長 久保 愛三 ㊞

令和3年5月27日

公益財団法人応用科学研究所令和3年度第1回理事会

議事録署名人 副理事長 北野 正雄 ④

令和3年5月27日

公益財団法人応用科学研究所令和3年度第1回理事会

議事録署名人 監 事 西 亨 印

令和3年5月27日

公益財団法人応用科学研究所令和3年度第1回理事会

議事録署名人 監 事 村上 博保 ⑩